

カワネズミ

Chimarrogale platycephala (モグラ目トガリネズミ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさは 10～13cm くらいで、体重は 24～56g のモグラの仲間です。尾は長く、手足の指の両側には水かきの役割をする毛が生えています。毛の色は、背中中は黒っぽい灰色で、お腹は淡い灰色です。

I すみ場所

本州、四国、九州に分布し、低地から標高2000mまでの山間の溪流にすんでいます。

I 生活のようす

出産は1年に2回、春と秋に河畔の土中や石の下に巣をつくり、2～5頭の仔を産みます。河川を泳ぎながら、水中や水辺で小魚、カエル、川虫(水生昆虫)などを食べています。日中にも活動しますが、夜間はより活動的になります。

参 考

「長野県版レッドリスト」で希少な哺乳類に指定されています。

溪流や溪流沿いに生活し、溪谷や河川の代表的な哺乳類です。

名前から想像すると、ネズミの仲間と思われるがちですが、目や耳が小さいところはモグラの仲間の証拠です。

ニホンザル

Macaca fuscata fuscata (サル目オナガザル科)



現地撮影

生態情報

I からだの特徴

ニホンザルはヒトと同じ霊長類という哺乳類です。からだの大きさは 60cm くらいで、体重は 10～18kg、毛の色は茶褐色または灰褐色です。お尻は特徴的な赤い色をしています。

I すみ場所

本州以南に広く分布していますが、世界的には最も北方に分布するサルとして、知られています。おもに森にすんでいます。畑などにも出てきます。

I 生活のようす

出産は2年に1回、春から初秋に1頭の子を産みます。多くは群れ(家族)で行動し、時には数十頭以上の大きな群れをつくることもあります。餌はアケビなどの果実、どんぐりなどの種子、葉、木の芽など植物質の食物ですが、キノコや虫、サワガニなども食べます。

参 考

日本の森林を代表する哺乳類ですが、畑などで作物を荒らしたりして、人間の生活と問題を起こすこともあります。野山で出会った時、ふつうはサルの方から逃げますが、まれに群れとばったり出会ったり近づきすぎた時は、襲ってることがあります。その時は、大声を出したりしないで目をそらして静かに離れましょう。

ノウサギ

Lepus brachyurus (ウサギ目ウサギ科)



現地撮影

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさは45～55 cmくらい、体重は1.3～2.5 kgほどの^{ほにゅうるい}哺乳類です。大きな^{うし}後ろ足と長い^{あし}耳が特徴です。夏の毛は全身茶褐色で、冬になると^{ぜんしん}耳の先以外は全身真っ白になります。

I すみ場所

本州・四国・九州に^{ぶんぶ}分布し、^{ていち}低地から^{あこうざんたい}亜高山帯までの^{そうげん}森や草原にすんでいます。特に^{ていさん}低山から^{さんちたい}山地帯に多くみられます。

I 生活のようす

出産は早春から秋まで、年に数回行われ、^{すうかい}枯草を敷いた^{かんたん}簡単なくぼみで、2～3頭の^こ仔を産みます。餌はスギ、ヒノキ、ハコベなど多くの^{えさ}植物の^め葉、花、^{じゅひ}樹皮などを食べます。おもに^{やこうせい}夜行性で^{とうみん}冬眠はしません。イタチ、キツネ、ワシタカなどが^{てんてき}天敵です。

参 考

^{のやま}野山を代表する^{ほにゅうるい}哺乳類で^{せいそくすう}生息数も多いですが、^{やこうせい}夜行性なので^{ひるま}昼間に^あ出会うことは少ないです。野外では、^{やがい}目撃よりも^{もくげき}糞や^{ふん}足跡などのフィールドサインが見られることが多いです。特に^{せきせつき}積雪期には、^{あしあと}ノウサギの^{てんてん}足跡が^{ようす}点々と続く様子がよく見られ、その後には、^おキツネが^{あしあと}追いかけた足跡を見ることもあります。

キツネ

Vulpes vulpes japonica (ネコ目イヌ科)



足跡



糞(フン)

現地撮影

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさは60～75 cm、^{たいじゅう}体重は4～7 kgほどの^{ちゅうがた}中型の^{ほにゅうるい}哺乳類です。とがった^{くちさき}口先と、^{さんかくけい}三角形で^た立った^{とくちよう}耳が特徴です。^{せなか}背中は^{あかかつしよく}赤褐色であごの下からお腹^{なか}にかけては白くなります。

I すみ場所

北海道、本州、四国、九州に^{ぶんぶ}分布しています。^{へいち}平地から^{やまおく}山奥まで^{もり}すんでおり、^{こうさくち}森と^{ひら}耕作地などの^{ばしよ}開けた場所が^い入り混った場所を好みます。

I 生活のようす

出産は土の中の^{すあな}巣穴で行われ、^{おこな}春先の^{はるさき}3～4月に^{とう}ふつう^こ4頭の^こ仔を産み、夏ごろまでは^{かぞく}家族で^{せいかつ}生活を^{えさ}します。餌は^{るい}ネズミ類・^{ちい}小さな^{とり}鳥・^{むし}虫などで、^{かじつ}果実や^{はな}人のごみを^よ食べ^{えさ}ることも^とあります。鼻と^{とき}耳が^{やく}良く^たきき、餌を捕る時にはとても役に立ちます。

参 考

^{やまの}山野を代表する^{ほにゅうるい}哺乳類ですが、^{やこうせい}夜行性なので^{ひるま}昼間に^あ出会うことは少ないです。^{りんどう}林道の^{せつじよう}ぬかるみや^{あしあと}雪上、^{むかし}畑の土のうえでは、足跡を見つけやすいです。
昔から、キツネはタヌキとともに、人を化かすと言われて有名ですが、お稲荷様信仰の「豊作の神様のお使い」として人に親しまれてきました。

テン *Martes melampus melampus* (ネコ科イタチ目)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

からだの大きさは45cm、尾の長さは19cmくらいで、冬毛が黄色のキテンと褐色のステン^{しゅるい}の2種類があります。夏毛は褐色で、胸にはオレンジ色や黄色の模様があります。

Ⅱ すみ場所

本州、四国、九州に分布し、森林をおもなすみ場所としています^{しんりん す ばしょ}が、樹木があれば人家周辺にもみられます。

Ⅲ 生活のようす

出産は春に2～4頭の仔を産みます。単独で生活し、昼も夜も活動しています。餌は鳥やネズミ類などの小型の動物、虫、果実類などを食べます。

参 考

人になじみのある、地域を代表する動物です。

オコジョ *Mustela erminea nippon* (ネコ科イタチ目)



糞 (フン)

現地撮影

生態情報

Ⅰ からだの特徴

からだの大きさは18cm、尾の長さは6cmくらいで、夏毛と冬毛は毛の色が変わり、夏毛は背中が濃い褐色、冬毛は全身白い色になります。

Ⅱ すみ場所

本州中部の北アルプス、中央アルプス以北の山岳地帯と北海道に分布し、一般に山地帯上部より高い地域にすみ、夏は高山帯の岩場などでもみられます。

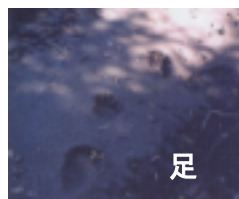
Ⅲ 生活のようす

出産は春に5頭前後の仔を産みます。単独で生活し、広いなわばりを持ちます。餌は肉食性で、鳥類、ノネズミ類、虫などの小動物を食べています。

参 考

「文化財保護法」により長野県の天然記念物などで希少な哺乳類に指定されています。

ツキノワグマ *Selenarctos thibetanus* (ネコ科クマ目)



足



薹(フン)

現地撮影

生態情報

Ⅰ からだの特徴

からだの大きさは 120～150 cm^{おおがた ほにゆうい}の大型の哺乳類です。全身黒色で胸に白い三日月^{もよう とくちよう みかづきもよう こたい}模様が特徴です。三日月模様のない個体もまれにいます。

Ⅱ すみ場所

本州・四国に分布しています(九州ではほぼ絶滅)。森林が続く限り、海岸線から^{ひょうご}標高3000mの日本アルプスの高山帯まで^{こうざんたい}です。

Ⅲ 生活のようす

出産は冬眠中の2月頃に1～2頭前後の仔を産みます。昼夜間^{しゅつさん とうみんちゆう}わず活動と休息を繰り返^{くりかえ}し、行動する時間帯は個体によって^{こと}異なります。人間の生活場所に出没^{しゅつぽつ}することも多^{おほ}いです。冬眠は 11月下旬～12月にかけて大木のほら穴や岩穴にこもり約5～6ヶ月間冬眠します。雑食性でおもに樹木の芽や実、草本類、虫を食べます。

参 考

「長野県版レッドリスト」で希少な哺乳類に指定されています。

生態系の上位種でその地域を代表する動物です。

クマも人間が怖いので、人間がいるとわかるば、クマが逃げます。クマに出会わないために鈴・ラジオなど音の鳴るものを携帯して、事前に人間の存在を知らせましょう。農林作業やハイキング、山菜採り等で山林に入るときは、とくに注意して下さい。

カモシカ *Capricornis crispus* (ウシ目ウシ科)



現地撮影

生態情報

Ⅰ からだの特徴

からだは70～80 cm^{たいじゆう}くらい、体重は 30～45 kg^{おおがた ほにゆうい}ほどの大型の哺乳類で、ウシに近い仲間^{ちか なかま}です。大人は 15 cm^{おとな}くらいの角を持っています。全身が灰色、灰褐色の長い体毛に覆^{おお}われ、足は太くてずんぐりしています。

Ⅱ すみ場所

本州・四国・九州に分布し、多くは山奥の森にすんでいます。特にブナやミズナラなどの森やその周辺^{もり}の岩場がおもなすみ場所です。

Ⅲ 生活のようす

出産は年1回に1頭を産みます。出産期は5～6月ころです。1頭で生活することが多く、群れを作ることは少ないです。食べ物は植物質で樹木の葉、草類、ササ類などを食べます。また、どんぐりなどの木の実も好物です。

参 考

『文化財保護法』によって「国の特別天然記念物」に指定されています。

見通しのよい岩場などで見かけることが多く、哺乳類のなかでは比較的近くで観察できる種類です。北風に粉雪の舞うような天候でも、岩場の上に長時間たたずむ姿は感動的です。